



年 組 名前

道新で ワークシート

A～Cの記事を読んで、あとの問に答えなさい。

A… 2023年11月24日（金）北海道新聞 朝刊 全道（総合）1ページ

卓上四季

雪の結晶の美しさは比類がない。さまざまな形の花模様が空から舞い落ちてくる。顕微鏡で観察を重ねるうち、こんなに美しいものがある。誰の目にも止まらずに消えて行くのが勿体ない。彼は考える。△雪が人工で出来ないものだろうか▽雪博士として知られる中谷宇吉郎である。北大で取り組んだ人工雪の研究の軌跡はエッセー「雪を作る話」に詳しい。雪はごく低温の上空で水蒸気が凝結してできる。だからそのまねをすればいい。そのはずなのだが、いざやってみると簡単ではない▽最初の冬は冷やした銅製の円筒に水蒸気を送る。次の冬は小型の銅製の箱を使う。いずれもだめだった。装置の工夫を重ねる。零下50度になる実験室の完成も追い風になった。1936年、世界初の人工雪を作り出す。ガラス管にウサギの毛をつるした。その毛先に結晶が育つ▽中谷が用いた実験装置などがこの秋、国立科学博物館の未来技術遺産に選定された。世界の雪水学や低温研究の原点としての価値が認められた▽装置の複製が北大総合博物館に展示されている。ガラス管やヒーターを組み合わせたシンプルな構造である。これが科学史に残る大きな成果を生んだ▽中谷は寺田寅彦に師事した名文家だった。自然の不思議や美しさに驚く心の大切さを記す。「雪は天から送られた手紙」の言葉もある。白銀の季節が近い。手紙を読み解いてみようか。

2023.11.24

B… 2022年 2月 9日（水）北海道新聞 朝刊 全道（総合）1ページ

卓上四季

「鉄道にとつて雪の猛威は恐るべきもの。ラッセル車出動を伝える新聞記事に都会の人は悠々と雪原を走る汽車を想像するだろうが、事實はそう簡単ではない」。大正・昭和の雪博士、中谷宇吉郎の「雪」の一節である▽当時のラッセル車は米国製。雪質が異なる日本では立ち往生することが多く、救援の除雪車が出動することも珍しくなかった。中谷博士は漫然と輸入車に頼った鉄道省の錯誤を厳しく批判し、科学者が解決すべき課題があると訴えた▽自然災害の対策には科学的研究が不可欠ということだろう。人口減や経済低迷に加え、コロナ禍で鉄道事業の経営は厳しい。人員や資金が限られるからこそ、合理的な対応が求められる現代である▽まとまった降雪の影響で、JR北海道では札幌駅発着の便を中心に大規模な運休に追い込まれた。除排雪が追いつかない道路では渋滞が発生。物流や市民生活に生じた支障の度合いは災害に等しい▽札幌管区気象台が2010年に過去半世紀の22地点の年間降雪量を調べたところ、増えたのはわずか1カ所、6カ所は減ったそうだ。短時間の集中的な降雪が増えているのだろうか。除雪態勢の抜本的見直しも迫られよう▽中谷博士は「野球選手のように研究者も養成すべきだ」と呼び掛けていた。相手を知らねば対策を講じることもかなわぬ。1938年の書物に込めた警句にいま一度耳を傾けたい。

2022.2.9

C… 2019年11月16日（土）北海道新聞 朝刊 全道（総合）1ページ

卓上四季

「雪の結晶は、天から送られた手紙」。この味わい深い言葉を残した中谷宇吉郎博士に「ケレイさんのこと」という冬の炉端で語られる夜話のようなおもむきの随筆がある▽戦後間もないころの初冬、米国人の物理学者ケレイ氏が、石狩川の河口を視察した。札幌への帰途、ひどい吹雪で遭難しそうになる。馬そりで原野をさまよっていると、かすかな明かりを見つけた▽たどり着いたのは貧しい農家。おばあさんが一人いて、見知らぬ外国人を親切に招き入れ、一晚中まきを燃やしてもなした。二人は対座して夜を明かす▽もちろん言葉は全く通じない。だが、「（おばあさんの）言いたかったことは、全部分った」「日本人の『言うこと』が、あれほどよく分ったことは、今までになかった」とケレイ氏は述べたという▽猛吹雪の中で明かりを目にすれば、ほっとして心が和むのは、その昔も自動車の今も同じだろう。暴風雪で立ち往生すれば、便利な車も危険なことに変わりはない。まだ冬の入り口なのに、道内は真冬並みの寒気に見舞われ、日本海側を中心に大荒れの天気となった。11月の嵐と言えば、7年前に胆振管内で大規模停電を引き起こした暴風雪を思い出す▽油断せず、外出は極力控え、万一の時は互いに手を差し伸べ合う。ケレイさんのような「行き暮れた旅人」への心遣いは、今も変わらぬ雪国の習わしであってほしい。

2019.11.16



年 組 名前

道新で ワークシート

① 記事Aの「白銀の季節」とは、次のうちどれを指し示しますか。

ア 春 イ 夏 ウ 秋 エ 冬

② 記事Bで紹介されている「当時のラッセル車」は、どの国で製造されたものですか。

ア アメリカ イ イギリス ウ ドイツ エ フランス

③ 記事Cの「ケリイ氏」について、当てはまらないものはどれですか。

ア 米国人 イ 物理学者 ウ 貧しい農家 エ 行き暮れた旅人

④ 「中谷宇吉郎」氏についての説明として、正しいものはどれですか。

- ア ラッセル車は輸入車に頼るべきと主張した野球選手であった。
- イ 雪博士であり、寺田寅彦が師事した名文豪であった。
- ウ 石狩川の河口を視察した帰りにひどい吹雪に遭い、馬そりで原野をさまよった。
- エ 「雪は天から送られた手紙」という言葉を残した。

⑤ A～Cの記事の特徴として最もあてはまるものを、次からそれぞれ選びなさい。

- ア 中谷宇吉郎氏の「雪を作る話」をもとに、雪国の習わしを説いている。
- イ 中谷宇吉郎氏の「雪」をもとに、人工雪を作った方法を詳しく紹介している。
- ウ 中谷宇吉郎氏の「ケリイさんのこと」をもとに、雪国の習わしを説いている。
- エ 中谷宇吉郎氏の「雪」をもとに、雪への対策の必要性を訴えている。
- オ 中谷宇吉郎氏の「ケリイさんのこと」をもとに、雪への対策の必要性を訴えている。
- カ 中谷宇吉郎氏の「雪を作る話」をもとに、人工雪を作った方法を詳しく紹介している。

⑥ A～Cの記事を読んで「文章の書き方」を参考にしたいと思ったものを選びなさい。
また、参考にしたい点も書きなさい。

選んだ記事は……

参考にしたい点……